

平成25年8月11日
今週のベストショット



雁レク5 ブルーマーリンズ 対 奈多フェニックス戦

三回表、一死からでも送りバントを決めランナーを進めるブルーマーリンズ一番末松選手。

写真：新町パイレーツ 安部貴大

奈多グラウンド 最終回の一瞬の隙を見逃さない奈多クラブの追撃！

レッドサンデーズ（2勝4敗1分）0 1 0 0 4 5 土師ー前田

奈多クラブ（4勝0敗3分）2 1 0 0 2 5 今林ー安河内

3BH：安倍慶（奈多ク）2BH：田中、土師、嶋村（レッド）上野、安倍健2、安河内2（奈多ク）

盗塁：八島（レッド）今林瑠（奈多ク）

一回裏奈多クラブは、一番上野選手が二塁打を打ち早速チャンス演出すると、四番安倍選手、五番安河内選手の連続二塁打で2点を先取する。二回表レッドサンデーズは、六番土師選手のチーム2本目のヒットがライト線への二塁打となり、続く七番嶋村選手の右中間二塁打で1点を返す。その裏奈多クラブは八番砂場選手がフォアボールを選び出塁すると、九番安倍（慶）選手の三塁打で一気にホームに帰り、点差を再び2点とする。三回、四回はお互いランナーは出すもののチャンスを物にできず勝負は最終回の五回へとすすむ。2点を追う先攻のレッドサンデーズは、先頭の前田選手が相手のエラーで出塁すると、続く壱岐選手はフォアボールとし、一二塁とする。すると三番田中選手の右中間二塁打で1点を返す。ここからバッテリーのミスも重なりこの回打者一巡で4点をもぎ取る。五回裏、奈多クラブは簡単に2アウトとされ、勝負あったかと思いきや、試合は2アウトからとはこのこと。五番安河内選手がこの日2本目の二塁打で出塁すると、六番今林（瑠）選手のバントヒット、七番途中出場の今林（祐）選手の2点タイムリーヒットで5対5の同点とする。しかし、反撃もここまで、最後は土師選手が意地の投球で内野ゴロを打たせゲームセットとなった。終始流れが両チームを行き来し、見ている者も手に汗握る試合であった。（記事、写真：三苦ホーネッツ 洲上祥太）



最終回二死までリードしていたレッド土師投手。



思わぬ苦戦を強いられた奈多クラブ今林瑠生投手。



二回表、代打で右中間への二塁打を放つ嶋村選手。



五回表、PBで逆転のホームイン！レッド吉岐選手。

雁レク5 フェニックス！無失点に抑え、強力打線で圧勝！！

ブルーマーリンズ（1勝7敗0分）000000 0 網脇●一尾田
 奈多フェニックス（6勝1敗1分）02420X 8 池見○、今林勇一実延新

HR：今林勇（奈多フ） 2BH：今林英（奈多フ）

盗塁：西藤、実延彰、今林英、沖（奈多フ）、末松、井上（ブルー）

二回裏、奈多フェニックスは四球で出たランナーを活かし、2つのタッチアップで2点を先制する。三回裏は、三番今林勇太選手の相手の守備位置を確認し狙い澄ました左中間真っ二つの3ランHRで3点を追加し、更に八番沖選手のライトへの犠牲フライで計4点を獲得する。四回裏にも五番今林英二選手のタイムリー二塁打等で2点を挙げたフェニックスがそのままブルーマーリンズ相手に無失点で勝利。ブルーマーリンズは送りバントや果敢なスチールもあったが、反撃の糸口を掴むことができなかった。（記事、写真：新町パイレーツ 安部貴大）



試合前挨拶。



ブルーマーリンズ先発の網脇投手。



4イニングを零封したフェニックス先発池見投手。



2イニングを零封したフェニックス今林勇太投手。



二回裏 実延彰洋選手のスチール。



三回表、送りバントを決めるBマーリンズ一番末松選手。



三回裏、左中間を割るHRを放つ今林勇太選手。



好守備で魅せたBマーリンズ足立左翼手。

青松園A 12安打の猛攻で三球会大勝！

ソルトベスターズ (2勝5敗1分)	10001	2	八柄●、中村(耕)、中村(祐) - 酒井
三苫三球会	(3勝3敗0分) 90210×	21	吉留○ - 藤澤

2BH: 渡辺、堺(太)、尾崎、右山、浜口(三球会)

ソルトベスターズは初回到に幸先よく1点を奪い先制するも、その裏ソルトベスターズ先発八柄投手は、制球難と味方のエラー、さらには適時打も浴び一回途中7失点で降板してしまう。初回先制をしたソルトベスターズであったが好調の三球会吉留投手を打ち崩せない。二回以降は点を奪えず三回、四回に至っては一塁も踏めない状態だった。その間に三球会は三回到に3点を追加、四回到には四死球で塁を埋めると四番堺(太)選手、五番

尾崎選手、六番右山選手の連続適時打などもあり、なんとこの回だけで10点を奪う。ソルトベスターズは五回に一死満塁のチャンスを作ると三番森（哲）選手のセカンドゴロの間に1点を奪うことができたものの反撃もそれまで。大量得点のチャンスであったが生かすことはできなかった。三球会が12安打と猛攻が目立つ試合であったが、同時にソルトベスターズの失点が目立つ試合でもあった。三球会がエラー1個、与四死球が1個であるのに対しソルトベスターズはバッテリーミスを含めエラー17個、与四死球が14個であった。この差が試合の明暗を大きく分けることとなった。（記事、写真：雁の巣ライナーズ 明瀬 旭）



ソルトベスターズ先発の八柄投手。



二番手で登板したソルトベスターズ中村（耕）投手。



6安打2失点と好投の三球会吉留投手。



一回裏、適時打を放つ三球会藤澤選手。



2点目のホームを踏む三球会新加入の大津選手。



三回裏、適時二塁打を放つ三球会渡辺選手。

雁レク4 初回の攻防で明暗くっきり！！

三友クラブ (2勝4敗1分) 0 1 0 0 1 福井●、足達一広瀬、柿崎

奈多サンデーズ (6勝1敗0分) 6 0 0 3 9 塚本○ー荒口

2BH : 鳥羽 (奈多サ) 盗塁 : 柿崎 (三友ク) 川原 (奈多サ)

一回表三友クラブは、先頭の竹岡選手が四球で出塁すると、内野安打や四球が続き二死ながら満塁のチャンス。しかし入口選手が三振に倒れ攻撃が終了。対する奈多サンデーズは先頭の土田選手が中前安打を放つと、三者連続で四球の押し出し。更に江口選手の犠飛や鳥羽選手の二塁打などで一気に6点を奪う。反撃に転じたい三友クラブは二回表に1点を返したが、その後はチャンスを作るもののサンデーズ野田選手の好返球や、ピッチャーライナーで併殺となるなど大事な時にあと一本が出ない。四回裏サンデーズはチャンスを作り大沼選手が中前安打を放つと相手の失策で打者走者がホームに帰ってきて時間切れ試合終了。三友クラブは一回途中から登板した足達投手が踏ん張っている間に点を奪えなかったのが痛かった。サンデーズは初回こそ大量点を奪ったが二回以降は足達投手のライズやチェンジアップに苦しめられてなかなか得点出来なかったが、要所要所できっちり守れば相手に点は与えないという事を実践した試合だった。(記事 : 新町ウインズ 野中一史、写真 : 城戸和裕)



試合開始の挨拶。



調子が悪ながらも力投するサンデーズ先発の塚本投手。



制球が定まらず苦戦する三友クラブ先発の福井投手。



リリースした三友クラブ足達投手。



ランナーをためながらあと一本の出ない三友クラブ打線。



しぶとくレフト前を放つ奈多サンデーズ鳥羽選手。



まさかのセカンドフライ落球！？



セーフティバントを試みる奈多サンデーズ川原選手。



塚本投手の球威のあるストレートにバットも空を切る。



試合終了の挨拶。

第13週編集後記

WSLの皆さん、こんにちは！

第13週、8月11日は晴天の中4試合が行われました。

奈多グラウンドのレッドサンデーズ対奈多クラブ戦は、試合開始直前にギリギリ9人そろったレッドの様子を見ていた奈多クラブは、初回のレッドを無得点に抑え、その裏3本の二塁打で早速2点を先取り余裕を見せていた。2点差で迎えた最終五回表、一番からの好打順のレッドは、エラーと四球に三番田中選手のタイムリーとPBで逆転。さらに九番田浦選手の押し出しで逆に2点差をつける。その裏土壇場の奈多クラブは二死ランナー無しから三連打で同点に追いつき辛くも5-5の引き分け。先週の編集後記で書いたが、この日も負けなかった奈多クラブ。しかし、戦ってみて分かったのは、奈多クラブが負けなかったのではなく、レッドが勝ち切れなかったのでもない。奈多クラブの慢心が勝てる試合すら勝てない状況を生み出していた。今季の3分けのうち、昨年優勝のフェニックスとの1-1の引き分けと、この試合の引き分けでは、まるで意味が違う。このことは奈多クラブの監督をはじめ選手は分かっているのだろうか？行けたはずの次の塁を狙わない走塁が端々に見えたが、昨季の低迷から一躍優勝候補に躍り出たがための浮かれる余裕はもうないはずだ。

雁レク5のブルーマーリンズ対奈多フェニックス戦は、二回裏にノーヒットで2点を挙げたフェニックスが、終わってみれば5安打ながら8得点を挙げ、Bマーリンズ打線を池見→今林勇太投手の二試合連続完封リレーで0-8と勝利。今週の表紙を飾ったBマーリンズの末松選手は、どの試合でも小技を絡めたい活躍を見せていますね。Bマーリンズの点を取りにいく姿勢は素晴らしいと思います。

青松園Aのソルトベスターズ対三苦三球会戦は、ソルトは繰り出す投手の四死球とバッテリーエラー等で大量失点。12安打14四球の三球会が2-21で勝利。やはり暑さでしょうか？入らなくなったときのピッチャ

一心理は如何なるものでしょう？逆に安定している投手心理も聞いてみたいです。

雁レク4の三友クラブ対奈多サンデーズ戦は、意外に接戦となることの多いのだが、初回三友クラブ先発の福山投手から3連続四球等でためたランナーをことごとく返すサンデーズ打線。初回の6点でほぼ試合が決してしまっただが、サンデーズは一～三回のピンチも守備力を活かしてWプレー3つ取るなど攻守に隙が無かった。

これで昨年優勝の奈多フェニックスが6勝1敗1分（勝ち点13）、次いで奈多サンデーズが6勝1敗（勝ち点12）、奈多クラブが4勝0敗3分（勝ち点11）、三苦ホーネッツが5勝1敗（勝ち点10）となっている。

リーグも後半戦に入り、実力派チーム同士の潰し合いが始まってくるので、上位チームも油断はできない。同時に中堅チームにもチャンスはあるので貪欲に勝利を目指してほしい。